


2021年度
児童養護施設・里親家庭等
進学応援金

事業
報告書




 朝日新聞厚生文化事業団

本部(東京)
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03-5540-7446 FAX 03-5565-1643

大阪事務所
〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18
TEL 06-6201-8008 FAX 06-6231-3004

西部事務所
〒812-8511 福岡市博多区博多駅前2-1-1
TEL 092-477-6930 FAX 092-477-6931

名古屋事務所
〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
TEL 052-221-0307 FAX 052-221-5453

 朝日新聞厚生文化事業団

協賛：原田積善会

御 礼

児童養護施設、里親家庭などから大学・短期大学・専門学校に進学する学生を経済的に支援する進学応援金は、2008年度のスタートから約400人に返還不要の奨学金を届けてきました。

さまざまな奨学金がある中で、この進学応援金の特徴は、ご寄付によって運営されていることにあります。そこには、苦しい状況で育った子どもたちへの、みなさまからのたくさんの応援の気持ちが込められています。

私たちは、この応援の気持ちがさらに広がり、次代の子どもたちにも届いてほしいと願っています。この「次の世代のために」という思いは、奨学金を受けている学生のみなさん(応援生)からも頻りに聞かれます。「私たちも後輩たちの力になりたい」「同じような経験をした私たちだからこそ、できることが必ずある」と。

こうした応援生の声に背中を押され、2020年度から、彼ら彼女らとともに、社会的養護で暮らす子どもたちのための「ぴあ活動」*を開始しました。

この報告書の中では、この活動についても掲載させていただきました。みなさまのご支援のもとに学び、挑戦する応援生の様子をお伝えできれば幸いです。

2022年4月入学の17人の学生が加わり、4月末時点の応援生は、66人です。一人ひとりの未来が幸せなものであり、豊かな社会を築く一員に加わってくれることを願い、今後も取り組んでまいります。

本応援金にご支援をいただきましたみなさまに、心からお礼を申し上げます。

*「ぴあ」は英語のPeerで仲間を意味します。

朝日新聞厚生文化事業団

進学応援金事業

奨学金事業:奨学金給付、応援生の生活全般相談対応「応援LINE」

ぴあ活動:ぴあセミナーの開催(P5に掲載)、ぴあ応援ラジオの発信(P7に掲載)など

進学応援金は、みなさまからのご寄付と山岡こども応援資金などを原資にしています。

2021年度の給付報告

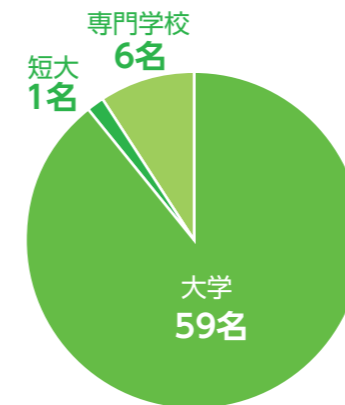
2021年度は、新入生17人、在学学生49人の計66人に総額2840万円を贈りました。在籍する学校の種別は大学59人、短期大学1人、専門学校6人です。

専攻は、「教育・子ども」が最多の13人。以下、「福祉・心理」12人、「看護」7人などが続きます。

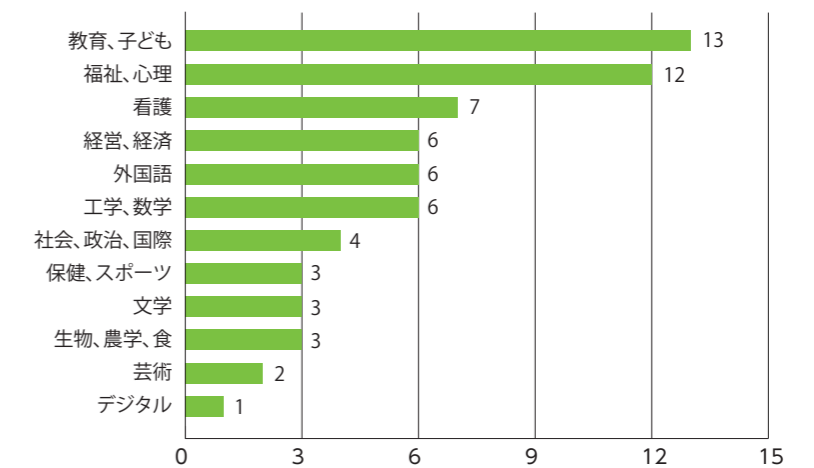
この他に、今春に卒業したのは24人で、進路は、看護、学校教員、IT、地方公務員、新聞社、ウエディングプランナー、大学院などとなっています。

また、途中退学が3人、音信不通が1人でした。

学校種別と人数



専攻内容と人数



人数などは2022年4月1日時点

ご寄付について

当事業を多くの方に知っていただくため、朝日新聞が運営するクラウドファンディング「A-port(エーポート)」を利用し、支援を呼びかけました。サイトを通じたご寄付は358万4555円(214件)。また、朝日新聞厚生文化事業団への直接のご寄付も334万5000円(46件)いただきました。みなさまのご理解とご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。内訳は下記の通りです。

| ご寄付の種別 | 寄付件数 | 寄付金額 |
|---------------------|------|------------|
| A-port(クラウドファンディング) | 214件 | 3,584,555円 |
| 朝日新聞厚生文化事業団への直接のご寄付 | 46件 | 3,345,000円 |
| 合計 | 260件 | 6,929,555円 |

しっかり勉強に励みたい!

いつも応援して下さいの皆さんには、とても感謝しています。進学する資金がなく、大学をあきらめてしまう人たちもいる中で、私は大学に進むことができ、自分が学びたいことを学べる環境にいます。本当にありがたいと感じています。これからもしっかりと勉強に励みたいと思います。



(女性・21歳)

社会に貢献したい!

みなさまの支援がなければ、自分の大学での4年間はありませんでした。本当にありがとうございます。大学院に進学します。さらなる知見を得て、社会に貢献できる人材になりたいと考えています。



(男性・22歳)

これからも頑張ります!

施設出身の私が大学に進学し、留学を目指したのは応援して下さいのみなさまのおかげです。留学は残念なことに中止になってしまい、とても落ち込みました。ですが、今まで頑張ってきた事は変わらないので、気持ちを入れ替え、今後も勉強やボランティアとしての活動に励みたいと思います。これからも応援をよろしくお願いいたします。



(女性・20歳)

独学で調理師合格!

コロナ禍で大変ななか、ご寄付いただきありがとうございます。半分以上の授業がオンラインになり、時間ができました。その時間を使って、学校とは別に独学で調理師試験の勉強をし、合格することができました。

(男性・21歳)



自信を持って自分の道を!

応援金のおかげで楽しく、充実した大学生生活を送ることができています。大学では自分の夢に向かって勉強することができ、進学を諦めなくて本当によかったと思っています。応援して下さいの方がいることは、とても心強く、自信を持って自分の道を進もうと感じられます。これからも応援よろしくお願いします。



(女性・19歳)

大学や短期大学、専門学校で学ぶ私たちから寄付者の皆さんへ

ご寄付と応援 ありがとうございます!



期待に応えたい!

ここまで大学生生活を送ってこられたのも、夢を追い続けることができていのも、応援して下さいのみなさんのおかげだと、つくづく感じています。それだけ期待され、責任があるということも、承知しております。直接言葉でお伝えできないのがもどかしいですが、感謝の気持ちでいっぱいです。



(男性・21歳)

学べるのがうれしい!

コロナ禍でなかなか通常の学生生活が送れず、やる気が消えてしまいそうな時には、「応援して下さいの方がいるから、好きなことを学んでいるのだ」と自分を励まし、頑張っています。今、こうして学んでいることがとてもうれしいです。みなさんに成長した姿を見せられるように、これからも頑張っていきたいと思っています。



(女性・20歳)

初心を忘れずに!

みなさまの応援のおかげで4年間安心して大学に通うことができました。高校生の頃、経済的な負担を考えると大学進学は不可能かと悩んでいた時期もありました。進学のお機会を与えて下さり、本当にありがとうございます。今後も初心を忘れず精進していくと同時に、みなさまからいただいた応援を、今度は社会や後輩へと還元していきたいです。



(女性・22歳)

看護師への道歩めた!

学校に行くことが難しく、志した看護師に本当になれるのか、諦めるべき夢ではないのかと悩む時期もありました。しかし、応援して下さいのみなさんの存在を知り、長年の夢だった看護師国家試験を受験できました。辛いこともありましたが、たくさんの応援でこの道を歩めていると思うと、一人じゃないと感じられました。この御恩を返していきたいと思います。



(女性・21歳)

夢はアプリ開発!

応援して下さい、ありがとうございます。大学では夢に向けてプログラミングの学習をしています。得た知識をいかし、自分の力でアプリを開発してみたいと考えています。このような挑戦ができる環境を与えて下さり、本当にありがとうございます。夢をかなえ、社会に貢献できるように頑張ります。



(女性・19歳)



私たちの新たなチャレンジ

支えが必要な「後輩」たちの力になりたい——。そんな思いから、応援金を受けて大学などに通う
 応援生の有志らが2021年9月、オンラインで学びや就職などの相談に乗る「ぴあセミナー（夢・
 進学 応援セミナー）」を開催しました。また、2022年1月には動画投稿サイトYouTubeのチャンネル
 「ぴあ応援ラジオ」もスタート。3月まで毎月1回動画を更新し、後輩たちの役に立つ情報を発信し
 てきました。仲間（ピア）をみんなで支えあう「ぴあ活動」の取り組みを紹介します。

ぴあセミナー@オンライン(2021年9月5日)

応援生の有志20人が企画・運営した「ぴあセミナー」には、全国の中高生や里親、施設職員ら約100人
 がオンラインで参加しました。講師のOB・OGや応援生らは、自らの経験を踏まえ、「後輩」である参加者
 が抱える進学や就職などの悩みについて、真摯なメッセージを届けました。中高生からも盛んに質問が寄
 せられました。

学びたい気持ち、諦めないで

この日の「ぴあセミナー」では、まず児童養護施設などで暮らす子どもたちを支援するNPO法人「なごやか
 サポートみらい」（名古屋市）の理事長・蛭沢光さんが講演。蛭沢さんも親の経済的事情で高3までの10年間
 を施設で過ごし、福祉系の大学に進学。20歳の時に「なごやかサポートみらい」を立ち上げました。

自らも無利子のお金を借りたりアルバイトを掛け持ちしたりして大学で学んだと振り返り、「給付型の奨
 学金にもどんどんチャレンジしてほしい。人生の先輩や里親さん、（施設の）職員さんに相談してみると、ヒント
 がもらえることがあります。行動に結びつけることも大切です」などと同様の境遇にある中高生を励まし
 ました。続いて、やはり児童養護施設出身で、同法人スタッフの水野梨沙さんが、様々な奨学金制度があるこ
 とを説明しました。

現在、日本では大学進学率が5割を超えています。短期大学や専門学校などを合わせると、8割以上が高
 等教育を受けています。一方で、虐待や親の病気、経済的理由などにより、児童養護施設で暮らす子どもた
 ちの進学率は2割台。もっと学び

たいと望んでも、諦めて就職す
 る子どもたちが少なくないのが
 現状です。こうした子どもたちを
 経済的に支えるのが奨学金制
 度。ただ、その情報が十分に当事
 者に伝わっていない側面がある
 ことも否めません。



ゴールと目的

あなたの目的は？ What is your purpose?



オンラインで開催されたセミナー。講師らが自らの経験を語った

社会人の「先輩」が体験語る

その後、セミナー参加者は「医療」「国際」「福祉・行政」「アー
 ティスト」の分科会に分かれ、それぞれの分野で活躍している
 先輩たちの話を耳を傾けました。「医療」分科会で講師を務め
 たのは看護師の山本愛夢さん。母子家庭に育ち、15歳からは
 里親家庭で暮らしました。「将来のことを里親に相談すると、
 一人でも生きていける看護師を勧められました。自分で給付
 型の奨学金について一生懸命調べました」と語りました。



四つの分科会には、様々な分野で活躍する「先輩」が登場した

「国際」分科会の講師は伊藤ヒロさん。母親と死別後、3歳か
 ら15歳まで児童養護施設で過ごしました。高校、大学を経て、現在は親を亡くすなどした子どもたちをサポート
 する団体をハワイで運営しています。「福祉・行政」分科会では、小4～高3までを児童養護施設で過ごした高
 橋未来さんが、「経験をポジティブに活かそう、（福祉の）制度を作る側になろう」と考え、大学進学後、厚生労働
 省に就職した体験などを披露。また、シンガーソングライターとして活動する松本哲也さんは「アーティスト」
 分科会で、児童養護施設や児童自立支援施設などで過ごした経験を語り、「音楽を通じてみんなや自分の居場
 所ができた」と夢を諦めないことの大切さを説きました。

参加者と応援生の質疑応答も

「大学や専門学校に行くメリットは？」「施設や里親家庭などで育ったことで困難に感じることは？」など中高
 生からは多くの質問も。セミナーを企画・運営した応援生たちは「大学進学は選択肢の幅が広がるのがメ
 リット」「心理面と金銭面でのバックアップが少なかったのが困難に感じた。強みを見つけて、奨学金を得られ
 るチャンスを増やしてほしい」などと一つ一つ親身になって答えていました。

セミナー参加者の声

奨学金の説明を丁寧に下さり、ありがとうございました。講師
 や応援生のみなさんが、しっかりと過去の自分に向き合ってお話さ
 れている姿が印象に残りました。「夢に優劣なんてない」と思わされ
 るような素晴らしいお話でした。（高校生）



それぞれの立場からのお話があり、子どもの心に響くものがあった
 と思います。里親として育てている高校生とは、教えていただいた奨
 学金を申請してみようという話ができることができました。子どもにとってす
 ぐい刺激になりました。ありがとうございました。（里親）

子どもの進学時、一番の問題となるのが「お金」のことであるた
 め、奨学金の情報はきちんと知っておくべきだと思いました。施設
 では奨学金について、職員が重く多いと思いますが、子ども
 と一緒に調べることも大切だと感じました。（施設職員）



ぴあ応援ラジオ@YouTube(2022年1月17日～)

応援生は2022年、YouTubeに「ぴあ応援ラジオ」と名付けたチャンネルを開設しました。児童養護施設や里親家庭などで暮らす中高生に、同じ境遇だった自分たちの体験を役立ててもらおうが狙いです。企画やパーソナリティー、編集を担ったのは6人の有志。大学進学などについての情報を発信しています。



YouTubeの「ぴあ応援ラジオ」のチャンネル画面に映し出されるイラストも応援生が描いた

気になる進学 ゲストと学ぶ

「自分たちのラジオが少しでも誰かの役に立てばうれしいです」

22年1月17日。そんな挨拶とともに、軽快な音楽に乗せて初回約19分の「ラジオ」がスタートしました。パーソナリティーは大学4年生(当時、以下同)のたかしさんと1年生のきよみさん。顔は出さず、画面にはかわいい男女のイラストを映すことにしました。



2021年12月、応援生有志が集まり、初回のラジオを収録

「ぴあセミナー」など自分たちの活動を紹介後、同じ応援生で3年生のるかさんと4年生のいろなさんをゲストに迎えてトーク。ともに児童養護施設や里親家庭で育ち、大学進学を果たしています。2人は生い立ちを踏まえ、「(進学する時には)お金の不安がありました。合格しても(大学に)行けるかわからなかった。施設の担当者が母親のようで、奨学金を申し込んでくれました」「里親さんが奨学金を見つけてくれて、進学できました」などと語りました。

「自分たちの体験が役に立つ」

もともと応援生有志は、バザーや清掃といったボランティア活動に取り組もうと話してきました。ところが、コロナ禍の広がりや断念。そうした時期にオンラインで開かれたのがぴあセミナーでした。

多くの後輩たちが参加し、同じような境遇で育ったOB・OGの講師や有志の話に熱心に耳を傾けてくれました。「私たちが中高生だった頃も、進学や奨学金などについて調べるのに苦労した。そうした『体験』を踏まえた情報こそが、必要とされているのかもしれない」。そう感じた有志は、さらに話し合いを続けます。導き出した結論が、中高生に身近なYouTubeによる情報発信でした。初回の収録は21年12月。有志13人が、都内にある閉校した中学校を活用した施設に集まりました。

「最初の収録前は緊張しましたが、始めると普通の会話のように話すことができました」とパーソナリティーのきよみさん。幼い頃に父親を病気で亡くし、主に里親家庭で育ちました。視聴した里親は「里親の会でも(ラジオを)広げたい」と喜んでくれたと手応えを語ります。

その後、2～4月に1回ずつ動画を公開。「ラジオ」は、福祉新聞や朝日新聞、NHKなどでも取り上げられました。

一人で抱え込まないで

実の親から虐待を受けたり、家庭が厳しい経済状況だったりするため、施設や里親家庭などで暮らす子どもたちは全国に約4万2千人。進学などのために必要な情報を得られにくいのは、周囲の友人らと環境が異なることも一因です。

初回のラジオで、ゲストの2人は「(進学の)お金で困っていた頃、自分一人では何もできず、つらかった」「中高生の時には一人で(悩みを)抱え込んでしまった。自分だけで頑張らず、誰かに支えてもらうことも大事」と振り返りました。

きよみさんは現在、応援金を得て大学に通い、保育士を目指しています。週5日は飲食店でのアルバイトにも励む日々。「大変なこともあります。お金を理由に学びの夢を諦めるのはもったいない」と語ります。自らも高校時代、悩みを抱え込んでしまった経験があるといい、「私たちの声を聴き、全国の後輩が共感や新たな発見をしてくれればうれしいです。そして、ぜひ自らの夢にもチャレンジしてほしい。あなたは独りじゃない。そう伝えていきたいと思っています」。



YouTubeチャンネル「ぴあ応援ラジオ」のアドレス
<https://www.youtube.com/watch?v=gNNxOl4Txqk>

YouTube



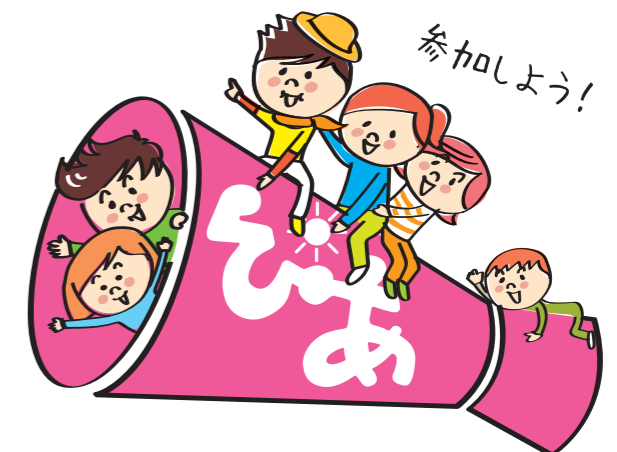
2022年秋には「ぴあ応援フェス」も開催予定!

「後輩たちともっとつながり、少しでも力になりたい」。そう願う応援生の有志たちは現在、インターネットを通じたオンラインイベント「ぴあ応援フェス～on-line(オンライン)～」の準備を進めています。10月8、9日の2日間にわたり、全国の中高生らと交流。「職業紹介」「進学準備」「個別相談」「レクリエーション」「職員・里親・サポーター」などの各ブースを設け、進学や就職、お金のこと、一人暮らし、気持ちの整理など、将来に向けたさまざまな質問や相談に応じる予定です。

2日間で大小あわせて50程度のプログラムを予定。参加者はオンライン上に、自分の分身である「アバター」を設け顔を映さずに参加することができます。企画・運営する応援生とだけではなく、参加者同士がつながり、交流を深めることも目指しています。

ぴあ応援フェス

詳細は朝日新聞厚生文化事業団のホームページ
[\(http://www.asahi-welfare.or.jp/\)](http://www.asahi-welfare.or.jp/)に掲載
 しています。



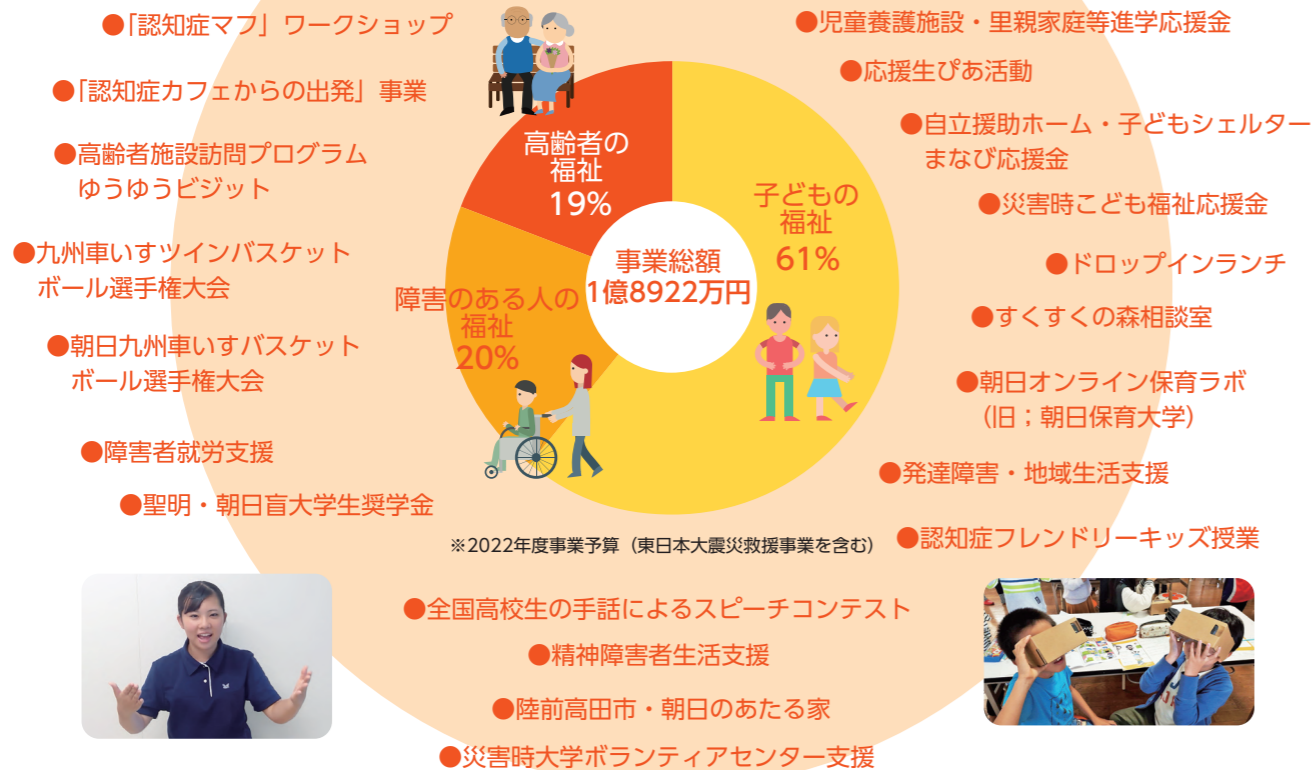
みなさまに支えられ、今年で94周年

朝日新聞厚生文化事業団の前身は1928(昭和3)年に設立されました。1923(大正12)年の関東大震災などをきっかけに、社会福祉事業の実践団体として、当時の大阪朝日新聞社内に設けられたのが始まりです。以来、90年以上、様々な活動に取り組んでいます。

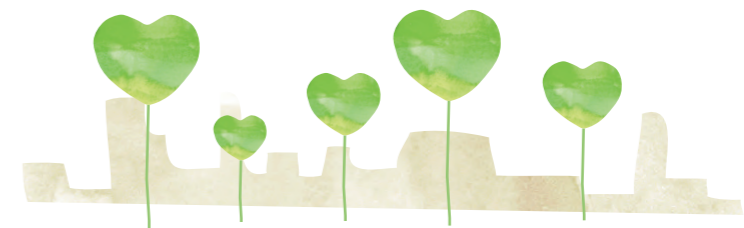
引き続き、よりよい社会のために、幅広く社会福祉事業を実施してまいります。



朝日新聞厚生文化事業団の 主な事業



—ご支援・ご声援をありがとうございました—



朝日新聞厚生文化事業団の「応援金」事業

児童養護施設・里親家庭等進学応援金

児童養護施設や里親家庭で育ち、大学などで学ぶ子どもを対象とした応援金。2008年度にスタートし、2021年度までに約400人を応援。

東日本大震災子ども応援金

2011年の東日本大震災で両親を亡くした子どもを対象とした応援金。年齢に応じて150万～300万円を給付。2011年度以降、202人を応援した。

自立援助ホーム・子どもシェルターまなび応援金

虐待などを受けて自立援助ホームやシェルターで過ごす子どもを対象とした応援金。高校進学や資格取得を支えるため、2020年度に新設された。これまでにのべ650人以上を応援。

新型コロナウイルス緊急学生応援金

自立援助ホームで育ち、大学などで学ぶ子どもに対し、コロナ禍でも学業を続けられるよう応援金を給付。2020年度にのべ1412人へ総額7,060万円を届けた。

2021年度
児童養護施設・里親家庭等
進学応援金 事業報告書

2022年6月15日発行

発行者 社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

執筆協力 河井 健

デザイン・イラスト かえるぐみ